

# 心の輪を広げる体験作文 小学生部門

# 「大好きなおじさんひみつ」

相模原市立双葉小学校  
二年  
小野 混貴

「絶対もうアーティストです。」ぼくが、すんでいたマジック界には、学校に行かれてきた

「おひつやおこしりをつけてねおじさんたちがこもる。おじさんたちば、上のからこすんで  
こぬのですが、あたはぼくの家のとなりのへやに入つてこせま。おじさん」「みんなで」  
「こすんでこぬの?」とおこだら、「みんなで」せんをたべるんだ。」とおしえてくわまし  
た。となつには、ねせりふもこくねせりふが「せきわくせきわく」と、せんかんかいふして  
もいろにおいがして、ぼくはねじかんだからメーハーをせんのがだいすけです。「今日せ  
せかなだったよ。」とせんじをつけてくわま。

「そんなおじさんたちのわざをこいつにあわす。西郷はいかに」「うるさい  
の」「おじさんたちは、とももたのしそうに、バスにあんなでまことにかねでかせこられる。  
だからおじさん」「おじさんたちこつも、えがおででかせこらね。」とせなしました。お  
じさん「おじさんたちは、ほこりかねてなでバスにのっておこうとしているんだ  
よ。」ふねつぱいながらのつた。「西郷はおじさんか」「こんな悪こがつた。西郷がうしろに立  
てたのもたごへんだとおもこがつた。もううしろがたのところのだとおもこがつか。

「ばくば、はじめて学校にこゝとおじさんたちの『がおやあいせつ』にだくさん『元気』をもらいました。だからぼくも、『えがお』であこがれをしきみんなが一団一団『元気』になれるようなおとなになりたいです。